

東京都市大、早大、原子力機構

連携協力で協定 研究強化と 人材育成

東京都市大学（中村英夫学長）、早稲田大学（白井克彦総長）、日本原子力研究開発機構（原子力機構、岡崎俊雄理事長）は1月15日、連携協力に関する協定を締結し、セルリアンタワー東急ホテル（東京都渋谷区）で締結式を行った。

この協定締結により、相互の研究資源を連携活用し、研究および人材育成のより一層の充実を図ること、わが国の学術と科学技術の振興に大きく寄与することが期待される。

中村学長の話「東京都市大学は、武蔵工業大学時代に自前で原子炉を造り、研究に利用し、廃炉にまでも

早稲田大学は、原子力そのものを教える人材が必ずしも多くはないが、今後そのエネルギー事情を考えれば原子力を有効利用していくことが不可欠で、世の中に優れた人材を輩出するた

めにも手を携えてやっていきたい。それは原子力機構のもつ力を借りずにはできないことである」

岡崎理事長の話「最近の原子力に関する研究開発や産業界の取り巻く状況を考えると、どうしても人材の養成が不可欠である。原子力機構は、両大学を含めて18大学・大学院と協定を結んでいるのがその現れである。やはり若い人たちが現場で原子炉なり放射線機器などに直接触れること、研究者と交流することが不可欠だけに、できる限りの協力を惜しまない」



白井総長の話「両学は今年の4月から大学院共同原子力専攻をスタートさせ

協定調印後に握手を交わす早大の白井総長（右）、東京都市大の中村学長（中）、原子力機構の岡崎理事長（左）

無断転載禁止

著作権は科学新聞に帰属します

転載承認済

東京都市大学グループ
学校法人 **五島育英会**